

## 平成27年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	卒業研究 (Graduation Thesis)		授業コード	C109939
担当教員名	坂井 美穂		科目ナンバリングコード	P41703
配当学年	4	開講期	通年	
必修・選択区分	必修	単位数	6	
履修上の注意または履修条件	卒業研究着手条件を満たしていること 実験計画をしっかりと練り、毎日実験するようにして下さい。			
受講心得	自ら学び、考え、行動してください。 課題と出席を欠かさないでください。卒業論文、卒業研究発表会と中間発表会での発表は必須です。 グループでの取り組みであっても、グループ内で役割分担をし、各自の取り組みを明確にします。			
教科書	適宜指示します			
参考文献及び指定図書	適宜指示します			
関連科目	これまでに履修した専門教育科目、教養基礎科目の全て			

授業の目的	<p>配属研究室の教員の指導下で、与えられた研究課題について研究を実施します。学生は個人研究、共同研究に関係なく、期末に実施する情報メディア学科の卒業研究発表会で報告することが義務付けられその結果で考課を受けることになります。</p> <p>学生はこの卒業研究の過程で文献調査、研究計画立案、実験手法、データの解析と取りまとめ方など、研究全般における基本的な手法について修得すると共に、自分の考え方を取りまとめ、他人に理解してもらうことができる技術を養うことになります。</p>
授業の概要	<p>テーマに沿って各自、又はグループで主体的に取り組めます。</p> <p>月1回、実験内容に関する報告会があります。</p>

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
<b>第1週：</b> 1年間で取り組む卒業研究について、計画を含めて解説する	月例報告・実験計画
<b>第2週：</b> 卒業研究の立案に向け、過去の卒業論文から先輩方の取り組みについて学習します	実験計画
<b>第3週：</b> 1年間で取り組むテーマについて立案し文章にまとめます。	文章作成
<b>第4週：</b> 設定したテーマに向けた仮説検証と問題解決に取り組めます	月例報告・実験計画
<b>第5週：</b> 設定したテーマに向けた仮説検証と問題解決に取り組めます	仮説の立案1、実験
<b>第6週：</b>	

設定したテーマに向けた仮説検証と問題解決に取り組みます	仮説の立案2、実験
<b>第7週：</b> 設定したテーマに向けた仮説検証と問題解決に取り組みます	仮説の立案3、実験
<b>第8週：</b> 設定したテーマに向けた仮説検証と問題解決に取り組みます	月例報告・実験計画
<b>第9週：</b> 設定したテーマに向けた仮説検証と問題解決に取り組みます	仮説の立案1、実験
<b>第10週：</b> 設定したテーマに向けた仮説検証と問題解決に取り組みます	仮説の立案2、実験
<b>第11週：</b> 設定したテーマに向けた仮説検証と問題解決に取り組みます	仮説の立案3、実験
<b>第12週：</b> 設定したテーマに向けた仮説検証と問題解決に取り組みます	月例報告・実験計画
<b>第13週：</b> 卒業研究での取り組みで明らかになったことを、論文とプレゼンテーションにまとめます	論文作成・プレゼン資料の作成
<b>第14週：</b> 下級生からの研究室訪問に対して対応します	プレゼン練習
<b>第15週：</b> 取り組んだ口頭審問の後に取り組んだことを、プレゼンテーションします。	報告
<b>第16週： 期末試験</b>	
<b>授業の運営方法</b>	(1) 授業の形式 「演習等形式」
	(2) 複数担当の場合の方式
	(3) アクティブ・ラーニング 「アクティブ・ラーニング科目」
<b>地域志向科目</b>	該当しない
<b>備考</b>	

○単位を修得するために達成すべき到達目標

<b>【関心・意欲・態度】</b>	①自分の専門分野について問題意識と探究心を抱くことができる ②課題に対し、積極的に調査・分析・研究することができる ③継続して研究等を行い、締切をまもることができる。
<b>【知識・理解】</b>	①自分の専門分野について自ら調査し、知識向上に努めることができる
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b>	①卒業研究報告書を書くことができる ②卒業研究報告書のプレゼンテーションができる
<b>【思考・判断・創造】</b>	①研究計画を立案することができる。 ②適切な分析手法を選択することができる

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
<b>【関心・意欲・態度】</b> ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		10点	10点	
<b>【知識・理解】</b> ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		20点	10点	
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b> ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		15点	10点	
<b>【思考・判断・創造】</b> ※「考え抜く力」を含む。		15点	10点	
<b>(「人間力」について)</b> ※以上の観点到、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	[Sレベル]出席基準を満たし、かつ、到達目標を満たしている。 [Aレベル]出席基準を満たし、かつ、到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル]出席基準を満たし、かつ、到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル]出席基準を満たし、かつ、到達目標を一部満たしている。
発表・その他 (無形成果)	卒論発表会での発表内容および卒業研究論文、日常の実験の総合判断をします。 中間発表(必)、口頭審問①(必)、ポスターデモンストレーション(必)